

令和 7 年度札幌市食育推進会議

議 事 録

日 時：2025年8月27日（水）午後2時開会
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通
カンファレンスルーム7D

１．開　　会

○事務局（秋野歯科保健担当部長）　定刻となりましたので、ただいまから令和７年度札幌市食育推進会議を開催します。

議事に入るまでの間の進行を務めます歯科保健担当部長の秋野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員の出席状況ですが、お手元の委員名簿のとおり、委員２０名のうち、ご出席をいただいている委員が１８名でございます。

札幌市食育推進会議条例第７条第２項の規定により、委員の過半数の出席がございますので、当会議は成立していることをご報告いたします。

それでは、お手元の会議次第に沿って進行させていただきます。

会議の終了は１６時とご案内しておりますが、１５時半頃を予定させていただいておりますので、ご協力をいただければ幸いです。

また、本会議につきましては、札幌市情報公開条例の規定により、市民へ会議の内容を公開することが原則となっておりますので、会議録を札幌市のホームページ上で公表させていただきたいと考えております。つきましては、会議内容を録音させていただきますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

また、本日は取材が入り、会議全体の様子を撮影する可能性がございますので、ご了承をいただければと思います。

それでは、お手元の資料等の確認をさせていただきます。

本日の資料は事前にご送付しております。会議次第、委員名簿、札幌市食育推進会議条例、札幌市附属機関等の設置及び運営に関する要綱、資料１の第４次札幌市食育推進計画令和６年度食育事業報告進捗状況一覧、資料２の令和６年度食育事業報告の説明です。また、第４次札幌市食育推進計画の本書を新しい委員の皆様にお配りしております。その他、本日の座席票のほか、資料３から資料１０をお配りしております。

不足がございましたら、事務局にお申しつけいただければと思います。

２．挨拶

○事務局（秋野歯科保健担当部長）　続いて、会議次第の２の挨拶に移ります。

開会に当たりまして、札幌市保健福祉局ウェルネス推進担当局長の金綱からご挨拶を申し上げます。

○金綱ウェルネス推進担当局長　皆さん、こんにちは。札幌市保健福祉局ウェルネス推進担当局長の金綱と申します。

本日は、大変お忙しい中、令和７年度札幌市食育推進会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様におかれましては、日頃より札幌市の食育の推進にご協力を賜り、重ねて深く感謝を申し上げます。

開会に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

初めに、本会議は札幌市の条例に基づく附属機関として設置をされておまして、食育に関する行政施策について委員の皆様にご議論、ご審議をいただく貴重な場となっております。

また、札幌市では、平成１７年に制定された食育基本法に基づき、平成２０年から５年ごとに札幌市食育推進計画を策定しております。現行の第４次計画は、令和５年度のスタートから今年で３年目を迎えたところです。この計画では、「食を通して豊かな人間性を育みます」という基本理念の下、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、食の循環や環境・安全を意識した食生活の推進と食文化の継承、食育推進体制の整備という三つの基本目標の実現に向けて取り組んでいるところです。しかしながら、札幌市民の健康課題に目を向けますと、野菜の摂取不足や食塩の摂り過ぎといった傾向があり、特に若い世代の方や働く世代の方におきましては朝食の欠食などの課題も見られるところです。

そのほか、最近の問題となっております米不足、あるいは、異常気象といった状況の中で持続可能な食の在り方が問われていると受け止めております。

こうした中、札幌市では、人生１００年時代を見据え、第２次札幌市まちづくり戦略ビジョンにおいて、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現を目指し、ウェルネ

ス（健康）をまちづくりの重要な柱の一つとして位置づけております。その一環として、令和6年度よりウェルネス推進部を新たに設置し、食育をはじめとする健康づくりの取組をより一層推進しているところです。

生涯にわたって心身ともに健康で生き生きと暮らしていくためには食を通じた健康づくりが欠かすことのできない基盤となります。現在抱えている様々な課題の改善に向けまして、皆様のご指導、ご助言をいただきながら、よりよい食育につながる活動を推進してまいりたいと考えております。

本日は、限られた時間ではございますが、委員の皆様におかれましては、どうか忌憚のないご意見と活発なご議論を賜りますようお願い申し上げます、簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 出席委員紹介

○事務局（秋野歯科保健担当部長）　続きまして、会議次第の3の出席委員紹介をさせていただきます。

今年度は、委員の改選がございまして、8名の委員に変更がありました。お手元の委員名簿に従ってお名前をお呼びしますので、恐れ入りますが、その場でご起立くださいますよう、お願いいたします。

まず、札幌市食生活改善推進員協議会の朝倉博美委員です。

札幌市PTA協議会の朝野由紀委員です。

公益社団法人全国調理師養成施設協会北海道地区協議会の池田尚志委員です。

公益社団法人札幌消費者協会の石川洋美委員です。

札幌市環境アドバイザーの石塚祐江委員です。

市民委員の植田ゆかり委員です。

一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会の太田真理委員です。

一般社団法人札幌市中央卸売市場協会の片貝太委員です。

札幌市農業振興協議会の軽部幹夫委員です。

藤女子大学の菊地和美委員です。

北海道技術・家庭科教育研究会の高橋正幸委員です。

札幌市小学校長会の高橋美保委員です。

一般社団法人札幌市食品衛生協会の中岡智委員です。

公益社団法人北海道栄養士会の中川幸恵委員です。

市民委員の野田郁実委員です。

一般社団法人札幌歯科医師会の針谷宜宗委員です。

一般社団法人札幌市私立保育連盟の水岡路代委員です。

札幌市立高等学校・特別支援学校校長会の山田浩富委員です。

以上、18名の委員にご出席をいただいております。

続きまして、本日、都合により欠席されている委員につきましてご報告いたします。

札幌市調理師団体連合会の大江廣嗣委員、一般社団法人札幌市医師会の岡村暁子委員、以上2名の委員が欠席となっております。

委員の皆様への委嘱につきましては、あらかじめ机上に委嘱状を用意させていただいております。よろしくお願いいたします。

また、本日は、事務局として、ウェルネス推進部ウェルネス推進課食育・健康管理担当課長の中澤、ウェルネス推進課の職員、関係部局の職員が同席させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、誠に恐縮でございますが、局長は、ほかの公務のため、ここで退席させていただきます。

〔金網ウェルネス推進担当局長は退席〕

◎札幌市食育推進会議について

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、札幌市食育推進会議につきまして、事務局から説明させていただきます。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） お手元の資料の札幌市食育推進会議条例をご覧ください。

会議の概要につきまして、主なところをご説明いたします。

推進会議の設置につきましては、第1条で、食育基本法第33条第1項の規定に基づき、札幌市食育推進会議を置くことになっております。

第2条では、推進会議の役割とし、食育推進計画の策定とその実施を推進すること、また、食育の推進に関して重要事項の審議と施策の実施を推進することとしております。

第4条では、委員の任期を2年と定めております。今回の委員の皆様につきましては、先ほどの委嘱状のとおり、令和9年7月31日までの任期となっております。

続きまして、第6条では、推進会議に会長を置き、委員の互選によって定めるとありますので、後ほど会長を決めていただきます。

また、第6条第3項には、会長の職務代理者は、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理するとありますので、こちらも後ほど会長から指名していただくことになります。

以上でございます。

4. 議 事

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、これから会議次第4の議事に入ります。

初めに、会長及び職務代理者の選任についてです。

先ほども説明しましたが、推進会議条例の第6条では、会長は委員の互選により選出することになっております。

会長の選任について皆様からご意見はございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○事務局（秋野歯科保健担当部長） ご意見がないようでしたら、事務局から提案をさせていただきますことよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（秋野歯科保健担当部長） では、事務局から案を提案させていただきます。

事務局案とし、藤女子大学の教授であり、前期の会長を務められておりました菊地委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○事務局（秋野歯科保健担当部長） ありがとうございます。

それでは、菊地委員に会長をお願いしたいと思います。

菊地委員におかれましては正面の席に移動していただきますよう、お願いいたします。

〔菊地委員が会長席に着く〕

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、菊地会長より、一言、ご挨拶をお願いいたします。

○菊地会長 ご紹介をいただきまして、ありがとうございます。藤女子大学の菊地和美と申します。

本日は、委員の改選によりこの会議が行われますが、皆様から活発なご意見を頂戴し、共有して今後に生かしていきたいと考えております。

本日の会議では、レジュメのとおり、令和6年度食育事業報告や第4次食育推進計画の令和7年度事業計画や事例紹介などを予定されておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

○事務局（秋野歯科保健担当部長） ありがとうございます。

続きまして、会長より、職務代理者の指名をお願いいたします。

○菊地会長 それでは、職務代理者として北海道技術・家庭科教育研究会の高橋正幸委員を指

名させていただきます。

○事務局（秋野歯科保健担当部長） ただいま指名をいただきましたので、職務代理者は高橋正幸委員にお願いしたいと思います。

高橋委員におかれましても、正面の席にご移動をお願いいたします。

〔高橋委員が職務代理者席に着く〕

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、高橋委員より、一言、ご挨拶をお願いいたします。

○高橋職務代理者 ただいまご指名にあずかりました北海道技術・家庭科教育研究会から参りました高橋と申します。

微力ながら皆さんと一緒にこの会議を充実したものにしていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（秋野歯科保健担当部長） ありがとうございます。

これからの議事進行につきましては、食育推進会議条例第7条に基づきまして、菊地会長にお願いいたします。

なお、各委員の皆様のご発言につきましてはお近くのマイクを使っていただくようお願いいたします。

それでは、菊地会長、よろしくお願いいたします。

○菊地会長 それでは、会議次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。

議題（2）の令和6年度食育事業報告について事務局から説明をお願いします。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 令和6年度食育事業の報告をいたします。

事前にお送りした資料1をご覧ください。また、資料2の令和6年度食育事業報告の説明は、資料1をまとめたものです。

初めに、資料1をご覧ください。

こちらは、食育関係課が令和6年度にどのような取組を行ったかをまとめたものです。

あわせて、お手元の第4次札幌市食育推進計画（概要版）には、写真つきで取組が載っており、参考になると思いますので、ご覧ください。

資料1の1ページから3ページは、生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進の基本目標に沿ったライフステージごとの食育の取組についてです。

主に食生活に関すること、朝食や野菜の摂取などについて、関係課、関係機関や団体等と連携した啓発を行いました。また、保育所や学校では給食を通じた食指導や楽しくおいしく食べる取組を行いました。高校生や大学生には食育講座等を実施したほか、成人や高齢者には企業と連携した取組を実施しました。また、各区では、乳幼児から高齢者までを対象に栄養相談や健康教育により啓発、食育推進を行いました。

4ページから6ページの前半は、農業との触れ合い、環境、食の安全・安心に配慮した食生活の推進等の取組についてです。農業の体験や地産地消、食品ロス削減、エコクッキング、地場産物の活用を推進し、環境に配慮した取組を行いました。

6ページの後半は、食育推進体制に関することについてです。

関係機関との連携による取組や食育ボランティアの育成支援等の取組を行いました。

続きまして、資料2をご覧ください。

こちらの資料は、先ほど申し上げたとおり、資料1をまとめたものです。

令和6年度は全部で107の食育事業に取り組みました。結果は、目標を達成している二重丸(◎)が90項目、目標値には達していないが、目標値に向かっている丸(○)が8項目、変化なし、または、目標値を下回っている、遠ざかっている三角(△)が6項目、実施年ではないなどの理由により評価ができなかったの横棒(―)が3項目ございました。

全体としては、取組の8割以上が目標を達成することができました。

令和5年度に比べて二重丸(◎)が増えた項目につきましては、令和6年度から新規事業として本格実施されたものがあったほか、コロナ禍以降に縮小していた事業の再開等によって増加しました。また、三角(△)が増えたのは、関係課において新規計画策定年や事業見直し等が重

なったことで定例事業が実施できなかったことが理由となっております。

また、資料にはございませんが、昨年度、市民の野菜摂取不足の対策検討のため、さっぽろウェルネス（タベル）健康対策検討部会を立ち上げ、12月にその会議を開催いたしました。

委員からは、市民が野菜を食べない理由として、時間がない、野菜不足の自覚がない、野菜を食べる目的が不明といった声が上がりました。対策としては、学生など、対象者を絞った啓発、SNSの活用、スポーツと栄養の連携、集客力のある場所での啓発、野菜レシピや推定野菜摂取量測定器の設置、行政と企業との連携などが提案されました。

これらの提案については、令和7年度の事業計画の中に反映し、後ほどご説明させていただきます。

続きまして、昨年度ご質問をいただきました件につきまして、進捗状況等をご報告いたします。

昨年度の会議の中で市民の野菜の摂取量は増えているのでしょうかというご質問をいただきました。本日の会場に設置していますが、日頃、どのくらい野菜を食べているかということをも30秒ほどで測れる推定野菜摂取量測定器（ベジチェック[®]）を使って約2万2,000人分の市民のデータを測定した結果、野菜摂取量が増加傾向にあることが確認されました。委員の皆様のご所属をはじめ、多くの方々にご協力をいただき、測定者も増えております。市民の皆様が意識的に野菜を食べるようになってきていると考えられます。

こちらにつきましては、お帰りの際に測定できるようになっておりますので、後ほどご案内させていただきます。

次ですが、昨年度、白石区で実施した小・中学校の児童生徒向けのアンケートの結果をご報告させていただいた際、全区でそのような取組を行ったほうがよいというご意見をいただきました。

現在、札幌市内の学校に勤務する栄養教諭等で構成される札幌市学校給食栄養士会において、市内全校の小学5年生と中学2年生を対象に調査を実施しておりますので、今後の会議などを通じ、調査結果等について何らかの形で皆様にお知らせをさせていただきたいと考えております。

最後に、リーフレットやレシピについてです。

本日、資料4のお弁当レシピコンテストレシピ集、資料5の6月の食育月間リーフレットの「毎日食べよう！朝ごはん」、資料6の2025年度野菜レシピを皆様にお渡ししております。一部、紙媒体もございますが、現在は紙媒体を減らしてデータ化、デジタル化を進めているところです。

関係機関等の皆様にはデータでのご提供を行っておりまして、今後もより一層のデジタル化を併せて進めてまいりたいと考えております。

○菊地会長 令和6年度の各食育関係課の取組については、全107事業のうち、活動指標を達成できた二重丸(◎)が90項目、残念ながら変化なし、遠ざかっている取組は6つということでした。また、ベジチェックの測定結果では野菜摂取量は増加傾向、全市でのアンケートについては札幌市学校給食栄養士会において調査を実施していること、リーフレット類は紙媒体からデジタル化を進めているとのことでした。

令和6年度の取組について委員の皆様からご質問やご意見を伺いたいと思いますが、皆様から質問が出る前に私から1点お聞きしたいことがあります。

全市で小学5年生と中学2年生を対象に行ったアンケートは非常に興味深いのですけれども、回答率はどのくらいでしたか。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 回答率までは把握していないので、この次のご報告のときにご回答いたします。

○菊地会長 大変興味深いと思ったので、ぜひ、次回のご報告を楽しみにしております。

それでは、皆様からご意見ご感想等をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

日頃の食育の取組、感想を含め、幼稚園等での様子についてお聞きできればと考えています。

私立幼稚園連合会の太田委員にお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

○太田委員 札幌市私立幼稚園連合会で副会長を務めている太田と申します。

前にもこの会でお話ししたことがあると思うのですがけれども、幼稚園では野菜を栽培しています。子どもたちは興味を持って育てるので、野菜が苦手な子どもも収穫してみると食べてみようという気になるのです。

今年は、特に暑かったせいか、野菜の収穫がとてもよく、例えば、キュウリなどもすぐに大きくなるので、今まであまりなりがよくないときは塩もみなどの調理の仕方子どもたちが自分で切ったりして食べていたのですがけれども、今年はキュウリをいためて食べてみました。そして、そのことをご家庭でお母さんにお話しして、いろいろな食べ方があるのですねと保護者の方にお話ししていただいたりしました。

このような幼稚園でのいろいろな取組があり、子どもたちが興味を持って栽培し、収穫することが食育につながっていくのだなということを改めて実感しているところです。

それから、これは私の個人的な話ですが、イオンなどに行くと野菜コーナーのところに推定野菜摂取量測定器が置いてありまして、小さいお子さん連れの方が並んで測定しているのです。

この会議で機械のことは知っていたのですがけれども、自分がどのくらい摂取しているのかが目に見えるものがあることで、食べていると思ったけれども、足りないのだな、十分足りているのだなと評価できるのはとてもいいなと感じております。

○菊地会長 私の家でも今年はキュウリがすごくなっていました。いためて食べるということで、いろいろな食べ方があるのだなと思いました。また、ベジチェック[®]については、イオンなどで試すことができたということを教えていただきました。

現在、イオンなど、いろいろなところでベジチェック[®]が置かれているような状態ですか。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 今はスーパーの中にも置いてありますし、ウェルネス推進課では、スーパーと連携してウェルネスイベントという測定会や各区の保健センターなどのイベントの際に行っているところです。

○菊地会長 これからもまた測定できる機会がいっぱいありそうですね。

環境アドバイザーの石塚委員からご感想やご意見などがございましたらお願いいたします。

○石塚委員 私は、生ごみを堆肥にリサイクルして家庭菜園で使い、循環をさせています。家庭の中で出るごみで、唯一、皆さんのお家の中で完結できるのが生ごみなのです。そうしてお家の中で出た生ごみを自分のお家の中で堆肥にして、それを土に返してできた野菜を食べることで循環できるのです。

しかし、食べ切って生ごみを出さないということが一番の環境教育ですので、堆肥にすることが目的ではなく、まずは食べ切ろうということです。自分でつくった野菜は自然と食べるのです。苦手だったものを克服できますし、つくる喜び、できた喜び、食べる喜びが環境教育だな、食育だなと思っています。

札幌市の給食のフードリサイクルはまさにそうですね。この取組を今から十数年前に始められた札幌市は全国的にも画期的でした。今、それが根づいて、給食を調理したときの調理くずを使ってつくられたレタスだと給食を出すときに説明しているのはとてもいいことだなと思っています。

これは大人になったときに影響していくと思いますし、生ごみはごみではないのだ、リサイクルできるのだということが伝わるかなと思っていますので、ぜひ継続していただければと思っています。

○菊地会長 フードリサイクルは食育にすごくつながっています。大変いいご意見をいただき、ありがとうございました。

そのほか、今回の結果等についてご質問がありましたらお願いいたします。

○中岡委員 札幌市食品衛生協会副会長の中岡です。

認定市民農園の開設についてお聞きます。

令和5年度と6年度の目標値に対して三角(△)がついています。僕自身、指定農園がどこにあるのかも理解していないのです。その中で、前年度が三角(△)でその前も三角(△)だったということですが、何で丸(○)にできなかったのでしょうか。

もう一つは、さっぽろ農学校専修コースの開設についてです。

これは、知識を身につけようということとして、すごくよい取組だと思います。前の年度は

人数もクリアしたとなっているのだけれども、その次の年度には人数がそこまで行っておらず、三角(△)になってしまっているのはなぜなのでしょう。

この2点について教えていただければと思います。

○事務局（長倉農政課長） 1点目のご質問の認定市民農園の関係についてです。

まず、認定市民農園がどこにあるかについてです。市街地の周りには市街化調整区域がございます。そこにある農地の中で一定条件を満たす農業者の方が開設し、認定したものが市民農園になっています。市街地、まちなかにも畑がありますが、そこは認定市民農園にはならないので、市街化調整区域の農園を皆さんはお使いになっているのです。あわせて、ご覧になったことがあると思うのですが、まちなかにも畑がありまして、そこもご使用になっています。

市街地の周りの農家が所有している畑で25か所を目標値として、補助金などもお渡ししながら開設の手助けをしているのですが、農業者の担い手不足や高齢化が札幌市もどんどん進んでおり、なかなか思うように進んでいかないのが現実です。

あわせて、今、当課で検討しているのですが、近年、市街地の中にある今までは対象となっていなかった農地も保全していくべきという方針が国から出されたものですから、今後、市街地の中の農地も保全していかなければいけないと考えております。

市民農園の補助は、今は市街化調整区域だけを対象としているのですが、将来的には市街地にある農地も補助の対象として市民農園の拡充を図っていきたいと考えているところです。

二つ目のさっぽろ農学校についてです。

専修コースの目標値24人に対して令和5年度が26人、令和6年度が18人ということで、少なくなっていました。この農学校は、札幌市東区にあるサッポロさとらんど内の農業支援センターの敷地で実施しているのですが、実は、専修コースのほかに入門コースもございます。入門コースはもっと募集人数が多く、こちらは非常に人気があります。

何が違うかといいますと、家庭菜園や市民農園を行う方は入門コース、入門コースを経た後、将来的に農家を目指してみたい、本格的にもっと農業を学んでみたいという方が専修コースに移動してくるのです。

専修コースにたくさん来てほしいのですが、入門コースを受講された方の意思もありますし、専門的な内容なものですから、ハードルが結構高いということもあり、令和6年度は少なくなってしまったということです。

○菊地会長 ほかにご質問等はございませんか。

○植田委員 植田と申します。

先ほど、資料2の総評の中で、定例事業が実施できなかった等が三角(△)が増えた理由であるという表現がありました。定例事業というのは毎年行われているものを指しているのではないかと思われるのですが、上に書かれているように、新規計画が策定されたりして時代とともに変化していくべきもののような気がしています。

定例事業についてこういう書き方をすると毎年やっているものができなかったという解釈にもなりかねないと思いますが、定例事業の位置づけ、考え方について、私たちはどう捉えたらいいのでしょうか。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 関係課に照会したときに三角(△)がついたものを確認したところ、こちらに載っているものを定例で行っているのですが、例えば、計画策定ができなかったという話を聞いております。

こちらは今年度に取り組を進めていきたいと伺っておりますので、来年度は改善に向けて進むものと考えております。

○菊地会長 では、来年度はもしかしたらこの表現が変わるかもしれないですね。

そのほか、ご意見やご感想などがありましたらお願いいたします。

コロナ禍が明けて食育・ボランティア活動も行いやすくなったのではないかなとも思われます。また、消費者のお立場などから発言をお願いできればと思いますが、どなたかいかがですか。

○石塚委員 5ページの環境に配慮した食生活の推進についてです。

この中に容器包装の簡素化という表現があります。このイベントについては私も関係しておりますから、なぜこれが三角だったかは十分に承知しているのですが、この容器包装というのは学校給食で出されている牛乳の紙パックなのです。時々、アレルギーなどで取り組めない学校もあったのですが、コロナ禍までは学校の現場で100%リサイクルされていました。しかし、コロナ禍後は学校給食の牛乳パックのリサイクルが復活されていないのです。これはとても残念なことだと思っています。

今から30年前、牛乳パックのリサイクル運動が学校の児童会から取り組まれたという背景があります。子どもたちが牛乳パックを捨てるのはもったいない、森林保護のため、ごみ減量のためと子どもたちが進んで始められた学校給食の牛乳パック運動を何とか復活することはできないでしょうか。やっていた記憶のある子どもがいなくなってきつつあるので、残念だなと思います。

ただ、先生たちの中には経験のある方もいらっしゃるかと思いますので、もし復活していただければ、私は、環境アドバイザーの立場として、ぜひ、容器包装のリサイクルにも取り組んでいただきたいと思います。

これは、食べるだけでなく、牛乳を飲み切るということにもつながっていたのです。牛乳を飲み切って、洗って、開いて、乾かしてというリサイクルです。子どもたちが飲んだ牛乳パックでどれだけのトイレトペーパーができるか、さらには、どれだけの木材資源が節約、保護できたかを伝えてきていたのですが、これができなくなっています。

今の燃やされているという現実はとても残念ですので、今後、この件についてご検討をいただければと思っています。

○菊地会長 学校給食の授業参観などに私も伺いすることがあるのですが、コロナ禍前までは牛乳を一滴も残らないくらい飲み切って、それを洗って自分の手で解体して1枚のシートにして乾かすという過程をすごく大事にしながら、毎日、リサイクルしていたなと思います。また、コロナによって中断してしまったという現状も確かにそのとおりのと思いました。

また、5ページの容器包装簡素化イベントの開催についてですが、ここは三角(△)になっていることもあり、容器の包装についてリサイクル等も含めて学ばいい機会でもあるのかなと思いますが、今のご意見について事務局からいかがでしょうか。

○事務局（大森学校給食課長） 紙パックの包装のリサイクルについてです。

おっしゃるとおり、コロナ禍前まではできていたのですが、コロナ禍を契機に今は中止をしております。どのような形で再開できるか、改めて検討させていただき、またご報告したいと思います。課題ということではしっかり受け止めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○菊地会長 では、欠席された委員からご意見等がございましたら事務局からお願いいたします。

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） 特にございませんでした。

○菊地会長 それでは、議事（3）に移らせていただきます。

第4次札幌市食育推進計画についてのアの令和7年度食育事業計画について説明をお願いします。

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） 前方のスライドをご覧ください。

令和7年度食育事業計画についてご説明させていただきます。

新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、改めまして第4次計画の策定趣旨についてご説明させていただきます。

第3次札幌市食育推進計画の成果や課題を整理し、市全体の食育の取組を進めること、介護などの支援を受けずに自立した日常生活を送ることができる期間である健康寿命の延伸や持続可能な食生活の推進を目指し、ライフステージやライフスタイルに対応した切れ目のない生涯を通じた食育の取組を札幌市全体で進めること、また、多様な関係機関等と連携した食育の取組を推進することであります。

こちらは、概要版の表紙にもありますけれども、第4次札幌市食育推進計画で掲げている基本理念と基本目標になります。

基本理念は、「食を通して豊かな人間性を育みます」としてあります。食べるという行動は、食を通じたコミュニケーション、健康的な食環境、食品ロスの少ない社会、北海道の豊かな

な農水産物の利用や食文化を継承することなど、幅広い分野と関連しています。

この計画では、市民が食に関する様々な知識を身につけ、適切な食品の摂取をするための判断力や技術を養うことで健全な体を培い、食に関する人々の苦労や努力、伝統的な食文化を理解することにより、豊かな心を育て、笑顔が広がるまちづくりを目指すこととしています。

基本理念の実現に向けましては、第3次計画の評価や現状から見えてきた課題を踏まえて三つの基本目標を設定し、これに基づく六つの基本的施策を定めました。

また、札幌市では、札幌市の最上位計画の第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンにて、将来を見据え、誰もが安心して暮らし、生涯現役として輝き続けるまちの実現を目指しています。

まちづくり戦略ビジョンでは、まちづくりの重要概念の一つとして、ウェルネス（健康）を掲げ、誰もが生涯健康で学び、自分らしく活躍できる社会の実現に向けた様々な具体的な事業を実施していくこととしています。

私どもウェルネス推進部では、今後の市民の健康づくりの推進に向け、「ウェルネス何スル？」を合言葉に様々な取組を展開しています。

健康行動として、食生活は「タベル」、運動は「ウゴク」、健康診断や血圧・体重測定等を「ハカル」、睡眠や休養は「トトノエル」と表し、四つの要素を挙げています。中でも、健康寿命延伸のために食べることは全ての人に欠かせないものであり、より健康的な「タベル」として市民の皆様実践していただくための取組が必要となっています。

こちらは、先ほど説明にもありました昨年12月6日に開催した部会になります。第4次札幌市食育推進計画及びさっぽろウェルネスプロジェクトの「タベル」分野において、企業、大学、各団体と連携した取組の充実強化に向けた検討を行うことを目的に開催したものです。

テーマは市民の野菜摂取量の増加とし、若い世代や働く世代を中心とした市民への周知をはじめ、効果的な取組を検討する機会として参加していただいた委員の皆様から様々なご助言をいただいております。大学や企業との連携により、野菜摂取しやすい環境づくり、無関心層へのアプローチを図ること、推定野菜摂取量測定器―ベジチェックのさらなる活用等のご提案をいただきました。

昨年度の食育推進会議のほか、部会でのご意見やご提案を踏まえた令和7年度の取組を中心に説明させていただきます。

初めに、野菜摂取量増加の取組についてです。

昨年度の会議でもご好評をいただいた漫画を活用したリーフレットを今年度も作成しております。資料6としてお手元にお配りしております。各区保健センターに配架しているほか、野菜販売店や大型スーパー等での配付の協力もいただいております。さらに、子ども未来局、教育委員会を通じ、図書館、保育所、公立幼稚園、学校、また、コンビニエンスストアでもデータ配信により活用、周知をいただいているところです。

野菜摂取量が特に少ない若い世代と働く世代をはじめとする無関心層に向けたアプローチの一つとして、札幌市は8月を野菜摂取強化月間と定めておりますので、これに合わせて市内11か所の大型街頭ビジョンや区役所のモニター等で野菜摂取量の増加を目指した札幌市のキャッチフレーズである「1日3回ベジだべさ！」のデジタルサイネージの放映を行っております。

次に、地産地消、食の安全・安心の取組についてです。

健康料理フェスティバルは、市民の健康意識と適切な食事摂取への関心を高めるとともに、食の安全や衛生について啓発すること、札幌及び北海道産の食材を使用した料理を紹介し、地産地消を推進することを目的に札幌市調理師団体連合会と札幌市の共催により開催しています。

写真は昨年度の様子です。今年は9月16日に開催を予定しておりまして、そば料理がテーマです。今年も大変多くの方に参加のお申込みをいただき、抽せんにより参加者を決定したところです。

次に、企業、大学と連携した取組についてです。

部会では、若い世代の関心を引くため、行政と企業が連携した広報を検討するとよいのではないか、また、親元を離れる高校生以降が課題ではないかというご意見をいただいております。

こちらは、栄養士養成校の学生から成る食育学生ボランティアがワークショップでアイデアを出し、日本ハム株式会社の管理栄養士と札幌市が協働で作成したリーフレットです。本日は資料7としてお手元に配付しています。

リーフレットでは、さっぽろウェルネス★朝ごはんプロジェクトとして大学生をターゲットにしたイベント、例えば、北大生協で行われたバランス朝食の提供のときなどに活用しています。

続いて、企業やメディアなどを活用した取組についてです。

北海道新聞の別刷りのさっぽろ10区には、毎月、テーマを決めてレシピを提供しています。10区の保健センターのほか、子ども未来局、食のボランティア団体である食生活改善推進員協議会からレシピや情報提供を行っており、読者アンケートでは大変好評と伺っています。

そのほか、食育サポート企業となっている株式会社アドバコムが発行しているフリーペーパーの子ども環境情報誌のエコチルにも情報提供を行っています。こちらでは食品ロスの問題なども取り上げております。

企業との連携では、食物繊維が摂取できるパンとスイーツをローソンが4月1日から販売しております。

こちらは、令和4年札幌市健康・栄養調査の結果、男性の59.1%、女性の51.3%の方の1日の食物繊維摂取量が摂取目標値に満たないことから、市立札幌病院の管理栄養士が商品案を提案し、ローソンと共同開発したものです。市立札幌病院とローソンでは2024年2月に初めて商品の共同開発を行い、食物繊維が摂取できるスイーツが2品、累計2万個が販売されました。今年の取組は第2弾となっております。

次に、推定野菜摂取量測定器についてです。

こちらは、自分が食べている野菜の量が可視化されてゲーム感覚で興味を持ってもらえるツールとして、活用機会を拡大するため、昨年度は2台だったところを今年度は4台運用しております。

イオンやアークス、無印良品等の商業施設との連携、サツドラFESなどのイベントで測定会を行っています。このほか、各区のイベント等でも活用をいただいているところで、若い世代、働く世代や無関心層に働きかける機会ともなっております。

また、株式会社明治とは、9月以降、老人クラブを対象としたセミナーを30か所以上で開催する予定です。

高齢者に向けた取組としては、令和6年度から、低栄養、口腔機能の低下、オーラルフレイルの傾向が見られる方、ハイリスクの方を対象に個別相談会や個別の電話相談、訪問を開始しています。

相談会は、高齢者のフレイルを予防するため、歯科医師、歯科衛生士並びに管理栄養士及び栄養士から専門的なアドバイスを個別に受けられるものです。令和6年度は、中央区、北区、南区でモデル実施し、ニュースでも取り上げられました。令和7年度からは本格実施し、市内の10区全てで20回の開催を予定しています。

相談会の運営は、札幌市歯科医師会、北海道歯科衛生士会、北海道栄養士会への委託により実施しているところです。

今回は、ウェルネス推進部の取組を中心にご報告をさせていただきました。

人生100年時代に向け、市民が健やかで心豊かに生活できる活力のある社会の実現のため、地域や関係機関・団体、企業との連携、協働を図り、心身の健康を支える食環境を整備し、無関心層を含めた効果的な食育を推進することが大切となっております。

委員の皆様のご所属でのお取組により、今後も食の大切さを伝えていただくことが計画推進の大きな取組の一つとなります。引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

私からの説明は以上です。

○菊地会長 第4次札幌市食育推進計画に基づく令和7年度食育事業計画について説明がありましたが、委員の皆様からご質問やご意見などはございませんか。

お考えでしたら、その間にレシピのお話をしようと思います。

資料6の野菜レシピをご覧ください。

8月が野菜月間ということでこのレシピがあるわけですが、本学は管理栄養士養成課程があるので、今月は、学生がパソコンやスマホ、タブレットで見られるPDFを利用させていただきました。紙ベースになっていますが、若い世代にはタブレットで見られる形が受け入れやすかったと思います。

この野菜レシピを見て、学生がどれをつくってみたいと思ったかという、魚と野菜のドレッシング焼きの票が多かったのです。一人暮らしの学生たちもこれならつくってみたいと思ったようです。魚をドレッシングで食べるということもそうですが、冷凍のカボチャなどは使いやすいですし、カット野菜を使っていることもあり、若い世代にも非常に好評でした。

今、若い世代の話をさせてもらったのですが、学生の現状や若い世代の取組についてご意見やご感想などをいただけたらと思います。

札幌市立高等学校・特別支援学校校長会の山田委員からご感想やご意見などがありましたらお願いいたします。

○山田委員 いろいろと取組をご紹介いただき、ありがとうございます。

改めて拝見すると、本当に幅広い世代でいろいろな取組をさせていただいているのだなと思いました。私は高等学校・特別支援学校校長会から来ているものですから、特に高等学校段階での取組がいろいろと進められているのだなと感じ、大変うれしくなりました。

感想を申し上げます。

食育学生ボランティアの養成などが先ほどのご説明の中にもありましたけれども、少子高齢化でいろいろなところで人手不足になっています。私もでいうと、世間でも紹介されていますように、教員の成り手もどんどん減ってきており、校長としては問題意識を持っています。今はそういう世代をどう育成してくかが問われているのかなと思っています。そういった面でいうと、食育学生ボランティアの養成もひょっとしたら想定しているより伸びていないのかなと思ひまして、これからは人材育成に力を入れていく時代が来るのかなと思っていた次第です。

学校でも、道立校の取組でいうと、大学生ではなく、その前の高校生の段階から教職を目指す方を養成しようという動きもありますし、改めて人材育成はこれから考えていかなければならないのかなと思っています。

繰り返しになりますが、食に関わるいろいろな取組がたくさんあり、ありがたいなと思った次第です。

最後に、私は、もう一方で特別支援学校の校長会からも出てきています。特別支援は、いわゆる障がいのある方です。障がいのある方にも、当然、食育が必要だと思いますし、障がいがあっても健常の方と同じような形で食育をされていると思っていますが、この先、共生社会という意味で障がいのある方に配慮した取組も必要になってくるのかなと思った次第です。

思いつくままにいろいろとしゃべらせていただきました。

今日は、ありがとうございます。

○菊地会長 幅広い食育についてお話がありました。

パワーポイントでも説明がありましたが、高齢者に向けた取組についても拡充しているということで、これについて歯科医師会の針谷委員からもコメント等をお願いします。

○針谷委員 札幌歯科医師会の針谷です。

我々、歯科医師は、日常の診療の中では食育に触れることはあまりないのですが、しっかりとかんで食べるということから歯を大事にしてもらいたいと思います。

学校の検診等では、最近の子どもたちはむし歯が少ない子が非常に多いのですが、歯並びのほか、しっかりとかんで食べるということが少なくなっているのかなという印象は受けますし、食べるものに対する意識をどのくらい持っていたいいるのかなと思ひながら診療しています。むし歯はかなり減っているのですが、食べるものの形態や硬さは気になりながらふだんは仕事をしております。

○菊地会長 ただいま2件のご意見やコメントがございました。

そのほか、皆様からコメント等がありましたらお願いいたします。

○石川委員 札幌消費者協会の石川です。

今日、実際に市で取り組んでいらっしゃるレシピ関係の資料をいただきまして、いろいろな世代に向けて、例えば、漫画調であったり、デジタルであったり、いろいろな入り口からレシピを発信されているのだなと思いました。これからますます高齢化しますし、いろいろな世代の方に届くような形で情報を発信することはとても大事だなと思いました。

先ほど言いそびれたので、消費者協会としての食に関する活動をお話しさせていただきます。

ご存じの方も多いかと思いますが、札幌ポトフの会が中心になりまして、独自事業もありますけれども、いろいろな委託事業など、年に数十回の料理教室を行っております。その取組の中で、年に一度、地産地消ということで、市内で一番売りたい野菜を中心に、昨年ですと、札幌黄など、品目に特化した料理教室を開催しています。また、野菜とお魚を組み合わせたり、よつ葉乳業と連携して乳製品と合わせた乳製品セミナーも行ったりしております。

10月には、食品ロス削減月間に向け、札幌エルプラザの2階の展示室にパンフレットを展示すると同時に、食品ロスにまつわる連続講座も行います。昨年の例では、野菜の丸ごと活用術など、その月ごとのトピックに合わせた特別講座を開催しております。ホームページから一般の方も参加できるようになっておりますので、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけをいただければと思います。

○菊地会長 ただいま石川委員から札幌消費者協会の取組についてお話をいただきました。

実は、札幌ポトフの会には藤女子大学の学生と一緒させていただいたことがあります。札幌ポトフの会の方が来てうちの学校で調理実習をしてくださったことがありまして、学生が大変喜んでおりました。

それはなぜかということ、食べ物を無駄にしないワンプレートランチだったということで、食器洗いも少なく済みましたし、ポテトサラダはお鍋一つでポテトをゆで、お水がなくなったら今度はそのまま潰して、無駄のない調理だったからです。学生がすごく感動していたこととお伝えしたいと思います。

今日は、いろいろな方々との取組で幅広い世代の食育が推進されているのだなということがよく分かりました。

間もなくお時間になるのですけれども、ほかにお話したい方はいらっしゃいませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○菊地会長 続いて、議事(3)のイの事例発表に移らせていただきます。

区が行っている取組について、事例を紹介いたします。

中央区保健福祉部健康・子ども課からお願いします。

○中央区(秋田管理栄養士) このたびは、当区の取組を紹介する機会をいただき、ありがとうございます。

一部になりますけれども、昨年度—令和6年度に当区が実施した事例を紹介させていただきます。

中央区では、子どもから高齢者まで、全ての区民が健康的な食生活を送るための力を身につけられるよう、地域全体が一体となって食育に取り組み、区民の健康と活力を育むことを目的として食育ネットワークを設置しております。

中央区の食育ネットワーク構成団体は、お示しのとおりです。

構成団体の皆様には、中央区で作成している啓発品や資料の配架、開催する事業への参加にご協力をいただいております。また、本日資料として配付しております「まいにち牛乳」という日めくり式カレンダーを作成した際には、アイデア出しや中に載っているイラストの作成にもご協力をいただいております。

それでは、中央区で実施した食育について二つ紹介させていただきたいと思います。

取組内容の一つ目はやさいつりです。

これは、子ども向けを主として活用しているものです。

やさいつりにご協力をいただいている構成団体は、中央区食生活改善推進員協議会様、中央区栄養教諭・栄養士ブロック会、ちあふる・ちゅうおうです。

やさいつりは、昨年度、子育て支援係主催で行っている子育てサマーフェスタ、子育てスノーフェスタと栄養士が開催した食育・健康づくり展 I N チ・カ・ホにて活用しました。

こちらは、1日の野菜摂取目標量が350グラムということをお子さんでも分かりやすく認知していただけるよう、何となく1品で食べられるグラムを目安にして野菜に点数をつけまして、1日5皿分の周知も兼ねて五つを釣っていただいて350点を指すというルールとなっております。

小さいお子さんにも野菜を知ってもらえるよう、自分で釣った野菜が何の野菜かという質問も加えながら行いました。また、今年度のサマーフェスタでは、350点ピタリ賞を設けまして、ピタリ賞が出たら追加で景品がもらえるようにしてみました。350グラムの周知につながったと思っております。

こちらはもともと子ども向けにと準備したものであったのですが、昨年度、食育・健康づくり展INチ・カ・ホでも実施したところ、参加者は大人世代の60代から70代が多く、大変好評で、大人に対しても野菜摂取目標量の周知につながりました。

こちらにお示ししているものがやさいつりの結果返しのプリントです。本日、皆様にもお渡ししておりますので、併せてご覧いただければと思います。

これは、釣った野菜五つ分の点数を合計し、これからも350点を指して野菜を食べようという周知と併せて資料をお渡ししています。

裏面は今が旬な野菜メモとしまして、その時期に合わせた野菜に変更して周知しています。皆様のお手元にあるのはサマーフェスタに向けた資料になっていきますけれども、秋開催、冬開催の事業がありますので、その時期に合わせた野菜に変更して配付しております。

これに加え、啓発品として、野菜の折り紙や保護者向けのレシピ等の資料も併せてお渡ししています。

続きまして、取組内容の二つ目です。

こちらは、本気（まじ）めしプロジェクトです。

本気（まじ）めしプロジェクトは、食に関する知識や意識、実践面において、ほかの世代よりも課題の多い若い世代を対象に調理実習や講話などの取組を行うものです。当課の本気（まじ）めしプロジェクトには、お示ししている赤色の字となっている構成団体の皆様にご協力をいただいております。

中央区では、食育連携校の北星学園女子中学高等学校と龍谷学園高等学校にて、高校2年生を対象に行っています。各学校のニーズに合わせ、北星学園女子中学高等学校では、朝ご飯を食べる習慣をつけられるよう、簡単に作ることができる朝ご飯の調理実習を実施しました。

また、調理サポートとして、中央区食生活改善推進員協議会にご協力をいただき、昨年度の食育月間レシピにありました豆腐ドリアとパプリカのサラダをつくりました。さらに、札幌ヤクルト販売株式会社より野菜摂取増加に向けた啓発品の提供をいただきました。

龍谷学園高等学校では、株式会社明治にご協力をお願いしまして、朝食摂取の大切さについてご講話をいただき、健康・子ども課の栄養士から野菜摂取を意識していただけるようにベジチェック[®]を用いた講話を行いました。また、カルビー株式会社より朝食摂取に向けた啓発品の提供をいただいております。

なお、対象としたクラスが少なくなっているのですが、どちらの学校も、日程の都合上、実施できなかったクラスについては資料の提供をさせていただいております。

また、食育連携校ではありませんが、札幌南高等学校の定時制の養護教諭の先生から依頼があり、今年度から同校にて本気（まじ）めしプロジェクトを開催することになっております。

続いて、龍谷学園高等学校にて実施したベジチェック[®]の結果についてお示しします。

生徒の中には、1日に一、二回は野菜を食べているという方が多く、その理由としては、朝ご飯や夜ご飯には野菜が出てくるから食べるけれども、お昼ご飯は自分で買っているから食べていない、そもそも朝ご飯を食べていないということが多かったです。

なお、前々年度の令和5年度は、ベジチェック[®]を使わずに講話のみとしていたのですが、事業後のアンケートの野菜の1日摂取目標量の認知度が66.3%と低かったため、前年度はベジチェック[®]を導入し、講話に加えて繰り返し伝えたところ、認知度が20%以上も上昇しました。また、野菜摂取のメリットについてよく分かったと答えた方が10%以上増えました。

高校生や若い世代にとっては、講話だけでなく、計測などの体験型の講座とすることで興

味、関心をもって聞いていただだけ、理解しやすかったのではないかと感じました。

ただ、1日に3回食えることができていない方が多いという結果も併せて出ておりますので、今年度はベジチェック®を用いながら1日3回食えるということも周知できるよう検討したいと思っております。

昨年度の事業では、構成団体の皆様のご協力のおかげで、楽しく学べた、今よりも野菜を食べようと思った、野菜が好きになったなどといった前向きな感想をいただくことができました。

今後も、行政だけの取組ではなく、ご協力を賜りながら、中央区民が食事に関する課題を前向きに捉え、日常で実践していただけるように発信を続けていきたいと思っております。

以上で中央区の報告を終わります。 ご清聴ありがとうございました。

○菊地会長 委員の皆様からご質問やご意見はございませんでしょうか。

○中川委員 非常によい取組の紹介をありがとうございました。

スライドの1ページの下に中央区食育ネットワーク構成団体と書かれています。これは中央区ということですが、ほかの区でも同じようにこういった構成団体で同じような取組がされているのでしょうか。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） お見込みのとおり、10区各区で食育ネットワークを立ち上げておりまして、構成につきましても大体同じで、乳幼児からご高齢の方までの取組を行っているところです。

○中川委員 こういった取組はある一定の時期にどこかでまとめられているのですか。自分は東区に住んでいるのですけれども、例えば、こういった取組の中に入れていただきたいときは誰にお聞きすればよいですか。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 各区の健康・子ども課で対応しておりますので、そちらにお問合せをいただくか、ウェルネス推進課でも構いません。どちらかにご照会ください。

○菊地会長 私からお聞きします。

先ほど高校生の朝食の欠食のことがあったのですが、中学生はどうでしょうか。

○高橋（正）職務代理者 中学校についてです。

私は、札幌市だけではなく、北海道とのつながりも若干ありますので、そこでの話題をお話ししますと、全部の地区ではないのですけれども、ある地区によっては朝食を取る生徒の割合が若干減ってきている傾向が最近のニュースではありました。どういう理由かまではその記事には書かれていませんでした。

回答になるかどうかは分かりないのですけれども、今までの食育に関するいろいろな取組等を初めて知ることも多く、改めて大事だなと感じました。

話題はそれるかもしれないのですけれども、中学校では、例えば、栄養教諭が1か月のメニューを各家庭に配付するためにつくるのですけれども、時々、給食のメニューで家庭でもつくれるものを知らせてくれることがあるのです。そうすると、家庭に帰った子どもたちがこの給食がおいしかった、つくってほしいなと言って家庭でつくっているケースもあると聞いております。

家庭科の中でいろいろな栄養素などの知識は勉強していくし、野菜が自分たちにとって必要だということも理解はしていくのですけれども、実際に生活の中でどれだけ取り入れられるかだと思うのです。家庭のこともあるかとは思っているのですけれども、もう少しそこが太くなっていくといいのかなと思っております。

ただ、年頃の子どもたちです。昔は食べなさいと言われてしつけられて食べることもかなりあったと思うのですけれども、給食も含め、最近では、多様化していますし、アレルギーの問題などもあって、必ず食べなさいとはあまり強く言えないのです。

それぞれのお子さんが自分にとって本当に必要かどうかも含め、理解したり自分で考えたりすることも大切ですし、おいしいかどうかもあると思いますので、幾つかの話題の中で好評だった調理例などが広がっていくとすごくいいのかなと感じました。

○菊地会長 中学校の例について、札幌市だけではなく、北海道のことについても貴重なコメントをいただきました。

いよいよ最後になってしまうのですけれども、ほかにご質問やコメントがありましたらお願いいたします。

○野田委員 市民委員の野田です。

中央区の高校生の食育の取組がすごくいいなと思いました。というのも、幼稚園、保育園、小学校、中学校を振り返ると、農業体験がどこかでちらほらあったのです。中学校の最後にはお米をつくったことをすごく覚えているのですけれども、高校生になった途端にそれがぱたりとなくなったことを覚えています。

高校生になると、お小遣いのある程度もらえるようになるので、何でも好きなものが買ってしまうのです。また、私もそうだったのですけれども、女の子は太るから食べないです。それから、部活もハードになってきます。私の友達にも結構ハードなテニス部なのに朝練があるから朝ご飯を食べてこなかったと言っている子がいました。あのときは、ああ、そうなのだと聞いていたのですけれども、今思うと良くないなと思っています。

ですから、高校生は盲点になるといいますか、一番食べなければいけない年頃なのに食べないという選択肢ができてしまっていますので、高校生に対する食育はすごく大事だと思います。

中央区の食育連携校の取組はすごくいいと思うので、もし可能であれば、道立、市立の全部の高校で食育の体験が一つでも入れ、それが記憶に残り、大人になったときにいいほうに響いてくれればなと思いました。

○菊地会長 ぜひ次回の報告を楽しみにしていますし、続々増えていくことを期待しております。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 各区でも高校や大学と連携して先ほどの推定野菜摂取量測定器を使った事業や講座も行っておりまして、これからも広げてまいりたいと思いますので、またの機会にご説明させていただきたいと思います。

○菊地会長 ほかにご意見やご感想などがある方はいらっしゃいませんか。

○池田委員 全国調理師養成施設協会の池田です。端的に言えば、調理師を養成する科のある専門学校や高校の集まりです。

調理師科の学生は、調理師になるためのレシピを学ぶだけではなく、食材についてなど、様々なことを学んでいまして、プロになるための勉強をしますけれども、全ての若者たちに必要な内容をやっているなど授業や実習などを拝見して思うのです。

そういう意味では、調理師養成の学校に限らず、先ほどもありましたように、高校生が家庭から社会へ一歩出ていく段階でしっかりとした食育がこれから必要になってくるのだらうと思います。しかし、残念ながら、体験学習的なものはあるものの、しっかりとしたものは時間の制限や教える人材の問題もあってなかなか実施されていません。

本校に来る学生にも、食材はパックに入っていて、野菜もちょうどよく切られているという意識があるのです。本校では肉を解体して骨から切り分けていくという実習があるのですけれども、それに対しては本当にこれから調理師になるつもりでいるのかというくらい驚くのです。

また、魚をさばく実習がありますけれども、最初の頃は見るも無残です。下手なのではなく、やったことがない、基礎知識がないということです。学生に話を聞いてみると、食材はパックに入っているという意識が非常に強いようです。最近は野菜の体験などがありまして、野菜等は体験する機会があるのでしょうかけれども、魚や肉はやらない人間はなかなか触れていません。ただ、少なくともパックに入っているという意識はいかがなものかなと思います。そういう意味でも、体験するという機会は非常に大事だなと思います。

ここからは個人的な意見です。

札幌市にはこれだけたくさんの高校があるのですけれども、先ほどの中央区の取組は、みんなが希望してこれだけの学校しか入れなかったというわけでもないのだらうと思います。私の記憶では札幌市には農業学科を持った高校はないはずです。先ほど農学校という表記がありましたけれども、あれは高校ではなく、文化講座のようなものだと思っています。そういう意味では、人材の育成、食育の推進の核になる組織として、高等学校に農業系の学科があるといいいのではないのかなと思います。

道内にはたくさんの農業高校がありますけれども、札幌市としての農業高校があってもいいですし、農業高校にこだわらずに農業科の学習をすることが必要になってくると思います。これからは、受験勉強ということではなく、社会で生きていくための人間力の育成という意味で、根元である食育を進めていくことが必要だと思います。もちろん、体験学習が第一歩だと思うのですが、それではイベント的なものでしかなくなるのかなと思いました。

○菊地会長 高校の授業の中では探究学習などもありますので、今後、探究学習とも結びつけながら、食育とコラボしていけたらいいのかなと思います。

ほかにご意見等はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○菊地会長 なければ、その他に移らせていただきます。

5. その他

○菊地会長 その他としまして、事務局から連絡などはございませんか。

○事務局(中澤食育・健康管理担当課長) 連絡事項が3点ございます。

1点目は、委員の交代についてです。

委員につきましては2年任期としておりまして、令和9年7月31日までの委嘱状をお渡ししております。やむを得ず交代する場合には、お手数ですが、事務局までご連絡をお願いいたします。

2点目ですが、令和7年度の会議については今回の開催で終了を予定しております。なお、先の話ではございますが、次年度の会議についても8月頃の開催を予定しておりますので、お心積もりをお願いいたします。近くなりましたら日程調整の連絡をいたしますので、よろしくお願いいたします。

3点目は、先ほどからご紹介しております推定野菜摂取量測定器—ベジチェック®—についてです。

本日、会場内にご用意しておりまして、手のひらをかざすと30秒ほどで測定することができますので、お時間に余裕がございましたら、ぜひご体験をお願いいたします。

○菊地会長 それでは、本日予定していた議題は全て終了しました。

全体を通してご質問などはございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○菊地会長 それでは、事務局にお返しします。

6. 閉 会

○事務局(秋野歯科保健担当部長) 菊地会長をはじめ、委員の皆様、大変貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

本会議の会議録は、後日、送付をさせていただきますので、ご確認のほど、よろしくお願いいたします。

本日、皆様からいただいた意見を参考にしまして、札幌市の食育推進計画の取組をしっかりと進めてまいりたいと考えております。

私ども札幌市行政も頑張っていくのは当然でございますが、食育の取組は非常に幅が広く、関係団体の皆様、企業の皆様、また、学校関係の皆様、その他様々な方々のお力添えが必要な分野です。本日お集まりの委員の皆様は札幌市の食育の取組を進めるためのキーパーソンの皆様だと承知しております。引き続き、札幌市の取組にお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして令和7年度札幌市食育推進会議を終了します。

本日は、長時間にわたり、どうもありがとうございました。

以 上